

ハル、量ハ逐日増加スルヲ以テ其市價ハ暴落シ生産費高價ナルニモ拘ハラズ收益之レニ相伴ハサルニ至ルヘケレハ吾等モ消費者ト同様政府ノ措置ニ對シ反對的示威運動ニ出ツルノ必要アリトノ決議ヲナシアイマイデン魚類輸出業者ハ政府ノ魚類輸出禁止令ニ反抗シテ或ハ同盟休業ヲナシ或ハ農商工務大臣ニ陳情書ヲ提出シタリ

如斯食料問題ニ關スル運動ハ二派ニ分レ一方ニ於テ消費者側タル下層労働者階級ノ物價騰貴、食料缺乏ヲ訴ヘ政府ノ斷然タル處置ヲ迫リツ、アルニ對シ他方ニ於テハ右下層社會ノ困窮ヲ救ハントスル政府並ニ市當局者ノ措置ニ不服ヲ唱ヘ輸出ニヨリ巨利ヲ博センカ爲メ國境ノ開放ヲ強要スル生産者側ノ有産者階級アリ政府ハ是等兩者ノ中間ニ挾マリテ頗ル困難ナル地位ニ陥リ加フルニ食料配給ノ方法ニ關スル政府對各都市當局者間意見ノ相違ハ本問題ヲ愈々紛糾セシメントスルノ傾向アリ

▲政府ノ措置

本問題ニ關シ政府並ニ各市當局者ノ施シタル措置ハ前記内務大臣ノ第二院ニ於ケル答辯ニヨリテ大體明瞭ナルカ今追次之レヲ列擧スレハ左ノ如シ

五月三十一日 農商工務大臣ハ家畜輸出許可證ノ發給ヲ停止セリ

六月十一日 新馬鈴薯ノ輸出ヲ禁止セリ

同 十五日 花「キヤベツ」、人參ノ輸出ヲ禁止セリ

同 同日 政府ハ全國各市、町、村當局者ニ對シ其管轄地域内所在馬鈴薯全部差押ヲ電訓セリ

同 十七日 「スピナック」、「キクヂシヤ」、^ス馬齒莧、^ベ莢豆類、豌豆、「マローファット」ノ輸出ヲ禁止セリ

同 十八日 馬鈴薯代用品トシテ政府所藏米並ニ黑豆ヲ各都市當局者ヲシテ一般公衆ニ配給セシム

同 二十日 砂糖ヲ多量ニ差押ヘ砂糖販賣業者ニ賣下ケタリ

同 二十四日 鮭、鰻、「アンチョヴィー」、「スピヤリング」(香魚ノ類) 鱈並ニ總テノ淡水魚ヲ除クノ外一切魚類ノ輸出ヲ禁止セリ但シ一定ノ量ニ限り輸出税ヲ徵收シテ輸出ヲ許可スルコト、規定シタリ

政府ノ差押ヘタル食料品ハ中央食料配給管理局ノ手ニヨリテ各市、町、村食料委員ニ交付セラレ食料委員ハ更ニ小賣商ヲ通シテ公定ノ小賣相場ヲ以テ一般公衆ニ販賣セシメタリ之レヲ要スルニ本問題ハ偶々當國州會議員選舉ノ時期ニ勃發シタルヲ以テ一部政治家ハ本問題ヲ政争ノ具ニ供シ下層人民ノ歡心ヲ求ムル爲ニ問題ヲ事實以上ニ誇張シ徒ニ政府攻撃ヲナシタル嫌ナキニアラサルモ食料品缺乏シテ下層階級ノ困窮状態ニアルハ是亦否定スヘカラサル事實ナルカ如シ

(二) 蘭國夏期法定時間繰上ノ件

○蘭國夏期法定時間繰上(七月三日官報) 本件ニ關シ同國駐劄落合特命全權公使ヨリ本年和蘭國法令

五月五日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ (外務省)

曩ニ獨國ニ於テハ本年五月一日ヨリ九月三十日ニ至ル間時間ヲ一時間繰上クルノ規則ヲ發布シタル處右ハ公私ノ經濟上殊ニ地方團體ニ於ケル電燈瓦斯等ノ費用ノ節約上便益尠カラサル由ニテ他國ニテモ之ニ倣フモノ多ク當國ニ於テモ先般法律ヲ以テ右同様ノ措置ニ出テ即チ五月一日ヨリ九月三十日マテ法定ノ時間ヲ一時間早メテ十月一日ニ至リ復舊スル次第ナリ尙ホ該法案ノ當國議會ニ於ケル討議ノ際農家ノ都合等ニ關シ種々議論モアリタル由ナルカ總理大臣兼内務大臣ハ該措置ノ實地ノ便否ニ至リテハ多少ノ疑問アルヘキモ便宜當夏期間試験的ニ之ヲ實行スルモ可ナルヘシト述ヘタル趣ナリ

(三) 和蘭航運業近況

(通商公報第三三〇號)

(大正五年五月五日附在蘭帝國特命全權公使落合謙太郎報告)

三月中旬當國商船「チユバンシヤ」(「ローヤル、ホランド、ロイド」會社所屬南米行船)及「バーレムバング」(「ロツテルダム、ロイド」會社所屬瓜哇行船)ノ二隻相踵テ北海ニ爆沈シ尙「ギヤロツパー」燈臺船及瑞典船「アスク」モ引續キ同海ニ於テ爆破シタルヨリ當國人ハ今更ノ如ク北海ニ於ケル航海ノ危險トナリタルニ驚キ當國輿論ハ之レヲ以テ獨國潛航艇ノ所業ニ歸シ當國新聞紙ハ筆ヲ揃ヘテ獨逸海軍ノ暴戾ヲ詰リ政府ニ訴フルニ今後斯ル悲惨事ノ

發ヲ防カンカ爲メ獨逸政府ノ確固タル保證ヲ得ンコトヲ以テセリ (前記「チユバンシヤ」爆沈事件ニ付テハ獨逸政府ニ對シ和蘭政府及當該會社ヨリ交渉ノ次第アリ遠カラス解決セントスル模様ナリ)

此時ニ當リ和蘭航運業者モ亦北海ノ危險ニ對スル保護手段ヲ施サ、レハ此上ノ航海ヲ續タルコト困難ナルヲ認メタルモノ、如ク前顯被害兩會社ヲ首トシ當國著名ノ航運業者ハ所有船舶ノ出帆ヲ中止シ又歸港ノ途ニ在ル船舶ニ對シテハ續航中止ノ電報ヲ發スルニ至レリ然レトモ政府ニ於テハ穀物殊ニ小麥ノ輸入ニ關シ和蘭船舶ヲ續航セシムルノ必要アリ又航運業者ニ於テモ何ハサテ置キ右事變以來締約不能ニ陥リシ船舶保險問題ニ付政府ノ援助ヲ請フノ必要アリ是ニ於テ三月二十日ロツテルダム及アムステルダムノ航運業者ハ内務、外務、海軍、農商務四相ト共ニ内務省ニ相會シ事件ノ善後策ニ付協議スル所アリシモ未タ満足ナル解決ヲ得ルコト能ハス

加之和蘭水夫組合ニ於テハ二十一日ロツテルダムニ於テ大會ヲ開キ北海危險ノ現狀ニ顧ミ政府ニ於テ相當ノ保護手段ヲ講スル迄出勤セサルヘキヲ決シ而シテ右保護手段トシテ(一)北海ニ於ケル船舶ノ往來ハ團體航海ノ方法ニ依リ和蘭ト英國トダウンス (Dowts) トノ間ハ掃海船ニ隨伴スヘキコト及(二)航路ヲ英國北方ニ採リテ曳船ニ護送セラルヘキコトヲ決議シ次テ組合代表者ヲシテ右決議ヲ齎シテ内務、海軍、農商務ノ三大臣ト協議スル所アラシメタリ又同日和蘭船長組合及運轉手組合モ各會議ヲ開キ共ニ北海航路ノ安全ニ關スル政府ノ保護手段並災厄ノ場合海戰罹災法 (Marine war accident bill) ニ基ク家族扶助料ノ増額

ヲ要求シ兩組合代表者ニ於テ政府ト何分ノ協議ヲ遂クル迄出勤セサルコトヲ決議セリ以上ノ結果遠洋航海ニ從事スル船舶ノ出入ハ殆ト終熄ノ姿トナリ只英國其他近國通ヒノモノハ多少ノ影響アリタルモ兎ニ角續航ヲ爲スニ至レリ

然ルニ二十三日ニ至リ一、二船舶ノ英國海峽ヲ通過シテ安全ニ歸港スルモノヲ生スルヤ人心ノ不安大ニ緩和シ水夫側ニ於テハ曳船ニ從ヒ團體航海ノ方法ニ依ルトキハ出勤ニ異議ナキヲ唱フルニ至レリト雖船長以下ノ士官ニ至リテハ依然トシテ前ノ要求ヲ固執シテ止マサルノミナラス蘇格蘭迂廻航路ニ對シテハ航路ニ馴レサルト徒ニ英國海軍ノ爲同國港ニ引致セラル、ノ機會ヲ増スモノトシテ之レニ反對セリ是ニ於テ政府ハ當業者ニ對シ英國海峽通過ノ保護手段トシテ「ノースヘンダー」燈臺船ノ近傍ニ無線電信其他ノ救難具ヲ備ヘタル一船ヲ碇泊セシメ又一日ニ一回曳船ニ伴ハレタル掃海船ヲ送りテ右燈臺船ト英國領海トノ間ノ掃海ニ從事セシムヘキ旨ヲ電知シ同時ニ政府ニ於テハ蘇格蘭迂廻航路ノ安全ナルヲ認ムト雖若シ當業者ニシテ英國海峽通過ヲ選フニ於テハ政府ハ該航路ノ危險ヲ成ルヘク減セシムルニ力ヲ惜シムコトナカルヘシ但シ右航路ノ選擇ニ因リ生スル責任ニ至リテハ一ニ之レヲ選擇者ニ歸セサルヘカラスト附言セリ二十七日ニ至リ政府ハ右電知ニ從ヒ救護船「アトラス」ヲ議シテ所定ノ場所ニ送り之レヲ英、佛、獨政府ニ通告シ海軍士官ヲシテ救護事務ノ指揮ニ當ラシメタリ然レトモ船長以下ノ士官ニ至リテハ尙家族扶助料問題ニ執著シ政府ノ同意ハ兎モ角少ナクトモ當該船會社ニ於テ之レカ増額ヲ承諾セムコトヲ希望シテ止マサリシカ翌日ニ至リ諸會社ハ此要求ヲ容レ茲ニ船員ニ關スル問題ハ殆ト解決スルヲ得タリ(尤

モ三月末ニ入り和蘭政府ノ爲ニ小麥輸入ノ任ニ當レル船會社中「ホラント、アメリカ、ライン」ノ水夫ハ賃金ノ値上及労働時間ノ改良ヲ要求シテ同盟罷工ヲ起スニ至リシカ後四月十四日會社側ノ讓歩ニヨリテ解決セリ)又往々曳船ニ隨伴シテ蘇格蘭迂廻航路ヲ採ルモノヲ生シタリト雖曩ニ政府ノ電知中ニ見エタル北海ニ對スル掃海船ノ派遣ハ未タ行ハレス旁々航海ノ安全ニ關スル政府ノ保證ヲ得ル迄「ローヤル、ホーランド、ネザーランド、スチームボート」會社ノ如キハ其船舶ノ航海ヲ見合ハスコト、シ和蘭船舶業者組合ハ戰時罹災保險法ノ建議ヲ議會ニ請願スルニ至レリ

右ノ狀況ニ鑑ミ政府ハ四月一日ヨリ二隻ノ曳船ヲ送りテ(四月末ニ入り曳船ヲ要求スルモノ殆ト之レナキニ至レルヲ以テ同三十日此ノ制度ハ廢止セラル)「ノースヘンダー」燈臺船トギヤロツパートノ間ノ曳船ニ從事セシムルコト、ナシタルカ一方當國船會社ハ一、二ノ實驗以來曳船ニ依ル蘇格蘭迂廻航路ノ相當安全ナルヲ認メタルヨリ漸次同航路ヲ選フニ至リ之レヨリ遠洋航海モ次第ニ恢復スルニ至レリ(最モ一萬噸以上ノ大船ハ諸會社共尙其出帆ヲ差控ヘ居レリ)只蘭領東印度トノ交通ニ從事セル「ネザーランド、スチームボート」會社及「ロツテルダム、ロイド」ノ如キハ同方面ニ對スル郵便物搭載ノ任ニ當リ從テ規則正シキ航海ヲ行フノ必要アルヲ以テソレ丈罹災ノ機會多シトシ政府ニ於テ災害ノ場合ニ對スル危險ノ分擔ヲ承諾スルニアラサレハ今後大船ハ固ヨリ少型船ト雖致テ出帆セシムルコトナカルヘシト決議セルヨリ四月下旬殖民大臣ハ右兩會社ト協議ヲ遂ケ蘭領東印度通ヒノ郵船ニ限り政府ニ於テ戰禍ノ分擔ヲ承諾スルニ至リ茲ニ右郵船ノ定期航海ハ蘇格蘭迂廻ニヨ

リ多數ハ喜望峰ヲ迂廻シ一部ハ蘇士運河經由ニテ再開セラル、ニ至レリ
 前述ノ如ク四月上旬以來當國航運業ハ漸次恢復ノ氣運ニ向ヒシカ同月中旬ニ入り更ニ其前
 ニ一大障礙ヲ見出スニ至レリ即チ獨逸潛航艇ノ活動ニ因リ幾多ノ船舶ヲ失ヒ且ツ軍用途輸
 送ノ爲メ最近特ニ船腹ノ不足ヲ感スル英國ハ過般來當國建造中ノ船舶ニ對シ其船腹ノ三割
 ヲ英國ノ使用ニ委スルニアラサレハ之レニ必要ナル建造材料ノ供給ヲ行ハサルヘシト主張
 シ居タルカ今回更ニ一方獨逸產船舶自用炭ヲ戰時禁制品ト確定スルト同時ニ他方英國及其
 給炭所ニ於テ船舶自用炭ノ供給ヲ受ケントスル中立國船舶ニ對シテハ其代價トシテ船腹ノ
 三割ヲ英國ノ使用ニ供スヘキヲ要求スルニ至レリ然ルニ當國航運業者中ニハ從來獨逸產船
 舶自用炭ヲ使用セルモノ鮮ナカラサルヲ以テ英國ノ此措置ニ對スル當業者ノ當惑ハ一方ナ
 ラサルモノ、如ク新聞紙ハ和蘭產石炭ノ豐富ナラサルコト及品質粗惡ニシテ船舶自用炭ニ
 適セサルコトヲ指摘シ英國ハ和蘭船ニ對シ其石炭ヲ供給シ和蘭船腹ノ使用ニヨリ之レニ對
 スル獨逸潛航艇襲撃ノ機會ヲ増シツ、アルモノナリトシ少ナカラス激昂シ居レルモノ、如
 シ一方政府ニ於テモ大船舶航海手控ノ現狀ニ顧ミ穀物輸入ノ關係上當國船腹ヲ他國ノ使用
 ニ委スルヲ好マス由テ同月十九日農商務大臣ハ和蘭航運業者組合代表者ト會見シ會談ノ席
 上和蘭船舶ヲシテ英國新措置ノ影響ヨリ免レシメンカ爲メ英領以外ニ同國產ナラサル船舶
 自由炭ノ貯藏所ヲ設ケ多少船腹ノ犠牲ヲ厭ハス成ルヘク多量ノ船舶用炭ヲ積載シテ長途ノ
 航海ニ堪ヘシムル様ニナスヘキコト及英國給炭所ノ援ヲ藉ルノ必要ナキ航路ヲ選フヘキコ
 ト等ノ議行ハレシ由ナルモ右ニ對スル各會社ノ利害甚ダシク相違シ爲ニ一定ノ方針ヲ決ス

ルコト能ハサリシト云フ尙本件ニ關シテハ當國航運業者モ英國政府ヨリ公式ノ通牒ニ接シ
 タルモノニハアラサルヲ以テ政府ニ於テハ近々英國政府ニ對シ事實ノ真相ヲ確メ旁々照會
 スル所アルヘシト云ヒ尙又他ノ報道ニ據レハ本件ハ英國側ニ於テ石炭賣渡ノ條件ト爲スモ
 ノニシテ和蘭政府ト關係ナク和蘭海運業者ノ利益ヲ代表セル「ネザール」ランド、オーヴ
 ー、トラスト」ニ對シ直接ニ交渉シ居ルヲ以テ遠カラス落著スルノ望アリトノコトナリ
 要スルニ三月中旬獨逸潛航艇ノ所業ト目セラル、事變勃發以來甚ダシク其常態ヲ攪亂セラ
 レタル和蘭航運業界ハ未タ全然恢復ノ域ニ達セスシテ更ニ其前途ニ新ナル困難ヲ加ヘタル
 モノナルカ是ヨリ先右航海困難ノ結果ハ既ニ一般食料品ノ騰貴トナリテ現ハレ且ツ海外ヨ
 リノ穀物輸入ニ支障ヲ來シタルヨリ小麥ノ貯藏著ルシク減少シ爲メニ農商務大臣ハ四月二
 十四日ヲ最後トシ病者ニ對スルモノ、外當分ノ間國內ニ於ケル白麵麩ノ供給ヲ禁止スルニ
 至リ市中ノ麵麩ハ皆大麥製ノ黑麵麩トナレリ

(四) 蘭領印度入國令

○蘭領印度入國令(七月十八日官報) 本件ニ關シバタピア駐在領事松本幹之亮ヨリ去月十
 日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ(外務省)

當領政府ハ左記譯文ノ如キ入國令ヲ制定シ遠カラス當領一般ニ施行セラルヘク施行期日
 ハ其細則發表ヲ俟チテ決定ノ筈ナリ

蘭領印度入國令

和蘭國法令

一九一六年二月四日瓜哇官報、一九一六年法令第四七號

(本令ニ牴觸スル從來ノ諸規則ハ凡テ其效力ヲ失フ)

第一條

(一)左ニ掲クル者ハ總督ノ指定スル港ニ限り其上陸ヲ許可ス

(イ)和蘭人ニシテ其兩親共ニ蘭領印度ニ定住セサル者又ハ蘭領印度ニ定住セサル和蘭人

(ロ)蘭領印度ニ定住セサル外國人

(二)上陸セントスル者ハ本令施行ノタメ總督ノ指定セル上陸官ヨリ上陸許可證ヲ受クヘシ

(三)總督ノ定ムル特別ノ條件ニ適合スルニアラサレハ左ニ掲クル者ニ對シ上陸許可證ヲ下付スルコトヲ得ス

瘋癲、自痴又ハ社會生活上危險ノ虞アル者、傳染病者又ハ體格上困窮ニ陥ル虞アル者

(四)前項ノ規定ハ本令ニ依リ下付セラレタル入國許可證ノ正當所有者ニハ之ヲ適用セス

第二條

船客ヲ運搬スル船長ハ左ノ義務ヲ有ス

(イ)船舶カ第一條ニ掲ケタル港ニ到者シタルトキハ直ニ其港ニ上陸スヘキ船客名簿ニ署名シテ之ヲ上陸官ニ差出スヘキコト

(ロ)第一條ノ規定ニ該當スル船客ナシテ上陸許可證ヲ攜帶セスシテ上陸セシムヘカラサルコト

第三條

(一)上陸許可證ハ船内ニ於テ發給シ其手数料蘭貨二十五盾ヲ納付セシム但シ入國ヲ拒絕セラレタル者ニハ手数料ヲ還付ス右許可證ハ上陸ヲ許可セラタル者ノ妻及未成年ノ子ニ對シテモ效力ヲ有ス

(二)和蘭國臣民ニハ第一項ノ手数料ヲ免ス

(三)到着後一定ノ期間内ニ(總督ノ定ムル)蘭領印度ヲ退去スル者ハ第一項ニ規定セル手数料ノ還付ヲ要求スルコトヲ得

第四條

(一)上陸許可證ハ上陸官ニ於テ別ニ取扱ヲ定メタル場合ヲ除キ上陸後直ニ總督ノ任命セル移民官ニ差出シ入國許可證ト引換フヘシ

(二)入國許可證ハ第一條第三項ニ掲クル者ノ外尙ホ左ニ掲クル者ニハ之ヲ下付セス賣淫ヲ目的トスル者

外國ニ於テ犯罪人引渡條約ニ基キ引渡サルヘキ犯罪ノ宣告ヲ受ケタル者
蘭領印度ニ於テ住居ヲ拒絕セラレタル者

自己及家族ノ生計ヲ相當ニ支持スルコト疑ハシキ者
公安及秩序ニ危險アリト認定シタル者

(三)土人ノ經濟的利益ニ害アリト認メラル、者ノ入國ハ總督ノ規定スル特別ノ條件ノ下ニ之ヲ許可シ又ハ單純ニ之ヲ拒絕スルコトヲ得

(四)本條第一項ノ引換ニ際シ本人ノ妻及未成年ノ子モ亦各々許可證ヲ受ク

第五條

(一)總督ノ指定セル船主又ハ汽船會社ニ屬スル船舶ノ一、二等船客ニ下付セラレタル上陸許可證ハ同時ニ入國許可證ノ效力ヲ有ス但右許可證ニ其旨ヲ記入スヘシ

(二)上陸官若シ第四條第二、三項ノ規定ニ依リ該船客ノ入國ヲ拒絕スヘシト認定シタルトキハ前項ノ規定ハ其效力ヲ失フ

第六條

(一)入國許可證ノ正當所有者ハ交通居住規則ニ遵據シ二年間蘭領印度ニ在留スルコトヲ得但シ第十二條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

(二)前項ノ期間ハ本人ノ願ニ依リ其居住地所轄州長官ニ於テ各々一年ヲ超エサル期間ニ回之ヲ延長スルコトヲ得

(三)延期ハ許可證ニ其旨ヲ裏書スルコトヲ得

第七條

(一)移民委員ノ決定ニ對シテハ其地ノ州長官ニ對シ八日以内ニ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得

(二)不服ノ申立ハ右委員ヲ經由スヘク當該委員ハ本人ノ拘置セラレサル場合ニハ州長官

ノ決定ニ據リ假入國許可證ヲ發給スヘシ

第八條

不服ノ申立ニシテ理由アリト認ムルトキハ假入國許可證ト引替ニ本入國許可證ヲ交付シ又ハ單純ニ之ヲ下付ス不服ノ申立ヲ理由ナシト認メ又ハ所定ノ時間内ニ不服ノ申立ヲ爲サ、ルトキハ州長官ハ書面ヲ以テ蘭領印度ヨリ本人ノ退去ヲ命ス

第九條

(一)第一條第一項ニ掲ケタルモノニシテ有效ナル入國許可證若クハ假入國許可證ヲ所有セスシテ蘭領印度内ニ滞在スル者ハ本人居住地ノ州長官ヨリ出頭ヲ命シ第四條ニ依リ許可證ヲ下付セサル者ヲ除キ入國許可證ヲ發給ス

(二)前項入國許可證發給ニ對シテハ有效ナル上陸許可證ヲ有スル者ハ蘭貨二十五盾然ラサル者同五十盾ヲ納付セシム但シ右ハ家長ニ對シ發給スル許可證ニ對シテノミ徵收ス

(三)適法ニ入國ヲ許可セラレタル者ニシテ許可證ヲ失ヒタル旨ヲ説明シ所轄長官ニ於テ理由アリト認メタル者ニ對シテハ手數料ヲ徵スルコトナク許可證ノ副本ヲ交付ス

(四)地方長官ノ決定ニ不服アルトキハ八日以内ニ本人居住地ノ州長官ニ申立ツヘク該長官ハ其事由ヲ審理決定ス

(五)右不服ノ申立ニシテ理由アリト認ムルトキハ入國許可證ヲ發給ス

不服ノ申立却下セラル、カ又ハ所定ノ期間内ニ不服ノ申立ヲ爲サ、ルトキハ本人居住地ノ州長官ハ書面ヲ以テ本人ニ蘭領印度ヨリ退去ヲ命ス

右州長官ハ本人ノ請求ニ依リ退去準備ノタメ猶豫期間ヲ與フ

第十條

(一) 第四條、第五條、第八條及第九條ニ據リ入國ヲ計可セラレタル者ニシテ公安及秩序ニ害アリト認めラル、者ニ對シテハ總督ハ入國許可證ヲ取上ケ且ツ蘭領印度ヨリ退去ヲ命ス

(二) 退去準備ノタメ本人ヨリ猶豫期間ヲ請求スルコトヲ得

第十一條

(一) 瓜哇及マヅラニ居住スル者ニシテ蘭領印度永住ノ許可ヲ得ントスル者ハ入國許可證ヲ添附シ本人ノ居住地州長官ヲ經テ總督宛捺印セル願書ヲ差出スヘシ
瓜哇、及マヅラ以外ニ住スル者ハ其居住地所轄地方長官ヲ經テ州長官ニ同様願書ヲ差出スヘシ

(二) 願書ヲ進達スル當該長官ハ入國許可證ニ其事實ヲ記入シ之ヲ出願人ニ返付ス出願人ハ永住證ヲ受クルトキハ入國許可證ヲ該長官ニ返納スヘシ

(三) 願書ニ對スル許否ノ決定アルマテ出願人ハ第六條第一項ノ權利ヲ保有ス

第十二條

(一) 公安及秩序ノタメ及出願人カ自己及家族ノ生計ヲ相當ニ維持スル能力ナシト認めラル、トキ又ハ入國許可證後刑ノ宣告ヲ受ケタルトキハ永住許可證ヲ下付セサルコトアルヘシ

(二) 永住許可證ノ下付ヲ拒絕シタルトキハ其理由ヲ記載シ同時ニ出願人ニ對シ蘭領印度ヨリ退去ヲ命スヘシ

(三) 第十條第二項ハ此場合ニ準用ス

第十三條

入國許可證又ハ永住許可證ノ下付ヲ拒絕セラレタル者又ハ之ヲ取上ケラレタル者ハ其居住地ノ地方長官之ニ監視ヲ附シ又ハ留置スルコトヲ得

第十四條

(一) 第二條ノ規定ニ違反スルトキハ各々一人ニ付蘭貨百盾ノ罰金ヲ課ス

(二) 前項ノ罰金ハ前項ノ旅客ヲ輸送セル船舶ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十五條

(一) 本條例ニ基キ蘭領印度ヨリ退去ヲ命セラレタル者ニシテ入國許可證又ハ有效ナル假入國許可證ヲ正當ニ所有セスシテ滞在スルトキハ蘭貨百盾以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ禁錮(歐洲人ノ場合)又ハ懲役(土人ノ場合)ニ處ス

(二) 前項ハ一九一一年法令第一三八號又ハ一九一三年法令第四五四號ニ基キ蘭領印度ヨリ退去ヲ命セラレタル者ニシテ有效ナル入國許可證又ハ假入國許可證ヲ正當ニ所有セスシテ滞在スル場合ニ適用ス

(三) 前項ノ場合ニハ刑ノ執行後蘭領印度ヨリ退去ヲ命ス

第十六條

和蘭國法令

前條ハ他人ノ入國許可證又ハ永住許可證ヲ使用シタルモノニ之ヲ準用ス

第十七條

本令ノ規定ハ之ヲ左記ノ者ニ適用セス

イ、政府ヨリ派遣セラレタル者及其家族

ロ、領事館員及其家族

ハ、各國軍艦ノ士官及水兵

ニ、商船船長、高級船員及乗組員但シ著港後又ハ碇泊中解傭セラル、者ハ此限ニアラ

ス

ホ、單ニ蘭領印度ヲ經由シ其航海ヲ繼續スル者但シ第十八條ノ適用ヲ受ク

第十八條

(一)第十七條ホ項ニ掲ケル者ニシテ公安及秩序ニ害アリト認めラル、トキハ總督ハ書面ヲ以テ蘭領印度ヨリ退去ヲ命ス

(二)右本人ノ乗船マテ其居所所轄地方長官ハ之ニ監視ヲ附シ又ハ之ヲ拘置スルコトヲ得

第十九條

總督ハ本令規定ノ適用ヲ免除スルコトヲ得

第二十條

(一)總督ハ本令ノ施行ニ必要ナル細則ヲ規定ス

(二)總督ハ土人ト同格ナル勞働者ニ關シテハ本令以外ニ別則ヲ設クルコトヲ得

暫行章程

第一條

(一)本令ノ施行前和蘭人及外國人入國ニ關スル規程ニ基キ有效ナル入國許可證ヲ有スル者ニハ第一條第一項及第二項ヲ適用セス

(二)右入國許可證ハ當該規程ニ定メタル期間本令ニ基ク入國許可證ト同一ナル效力ヲ有シ且ツ同様ノ理由及方法ヲ以テ之ヲ取上クルコトヲ得總督ハ入國許可證ヲ取上ケタル者ニ對シテ書面ヲ以テ蘭領印度ヨリ退去ヲ命ス

(三)第六條第二項及第三項ハ前項ノ期間ニ之ヲ適用ス

第二條

第三條ノ規程ヲ除キ第九條ノ規程ハ左ニ掲クル者ニ之ヲ適用ス

第一條第一項ニ掲ケタル者ニシテ本令施行前ヨリ蘭領印度ニ在留シ且ツ其後有效ナル入國許可證ヲ所有セサル者

此場合ニハ第九條第一項ニ基キ發給スル入國許可證ニ對シテ蘭貨二十五盾ヲ納付スヘシ

第三條

(一)第九條ハ左記ノ者ニ適用セス

イ、本令施行ノ際リオ州プラウ、トウヂユ區ニ居住シ尙ホ引續キ居住スル者

ロ、第二十條第二項ニ該當セサルモノニシテ本令施行前一八九二年法令第一三八號ニ

和蘭國法令

依り入國許可證ヲ要セサル者カスマトラ東岸州ニ引續キ住所ヲ有スルトキ

(二)本人ノ希望ニ依り第四條ニ依り入國許可證ノ下付ヲ受クルコトヲ得

(三)若シ入國許可證ノ下付ヲ受ケサルトキハ第十八條ニ基キ蘭領印度ヨリ退去ヲ命セラ
ル、コトアルヘシ

(四)第十條第二頁及第十八條第二項ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

附則

(一)本令ハ之ヲ入國令ト稱ス

施行期日ハ總督之ヲ定ム

(二)本令ハタンジョン、ピナン及リンガノ兩區及スマトラ沿岸外ニ位スルリオ州カリモン
區ニ於ケル外國亞細亞人ニハ適用セス

(三)前項ニ掲ケタル地方ニ於ケル外國亞細亞人ノ入國及永住規則ハ必要ニ應シテ總督之
ヲ定ム

總督ハ又本令ノ施行前上記以外ノ蘭領印度ニ住スル外國亞細亞人ノ入國ニ關シ本令以
外ニ別則ヲ設クルコトヲ得

(五) 蘭領印度渡航者ノ旅券ニ關スル件

○蘭領印度渡航者ノ旅券ニ關スル件(九月二日官報) 本件ニ付バタビア駐在領事松本幹之
亮ヨリ去月五日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ(外務省)

本邦ヨリ蘭領東印度諸島へ渡航スル者ハ在本邦蘭國領事ノ旅券査證ヲ要スル様心得居ル
者アルモ右ハ必スシモ同領事ノ査證ヲ要スル儀ニハアラス

瑞典諾威及丁抹國法令

瑞典諾威及丁抹國法令

第一 瑞典國領水内ニ交戰國潜水艇ノ航行又ハ碇泊ヲ禁止スル規則制定ノ件

(大正五年七月三十一日附
特命全權公使内田定植報告)

本年夏期ニ入り交戰國水雷艇及潜航艇ハバルチック海ニ出動シ之カ爲メ瑞典諸港ニ出入スル商船ノ拿捕撃沈サル、モノ多キノミナラス近來屢瑞典領水内ニ進入シ七月十日露國水雷艇ハ獨逸船「リサボン」號及「ウオルムス」號ヲ拿捕シ七月十六日露國潜航艇ハ獨逸船「シリア」號ヲ撃沈シ七月十八日獨逸水雷艇ハ英國船「アダム」號ヲ拿捕シ七月十九日露國潜航艇ハ獨逸船「エルベ」號ニ對シ水雷ヲ發射シタルカ右ハ何レモ瑞典領水内ニ於テ行ハレタルノナルニヨリ瑞典政府ハ此等中立違犯行爲ニ對シ其ノ都度當該國政府ニ抗議ヲ提出シタルカ今回七月十九日附ヲ以テ千九百十二年十二月二十日付中立規則ニ交戰國潜航艇カ瑞典領水内ニ於テ航行シ又ハ碇泊スルヲ禁止スル條項ヲ追加シ之ヲ侵スモノニ對シテハ豫告ヲ與ヘスシテ武力ヲ以テ攻撃スヘキヲ規定シ領水ノ限界ハ當國海岸又ハ其ノ島嶼ヨリ三海里(五五五六)メートルトセルカスンド海峽ノ航路ハ除外セリ右禁止ハ海上ノ狀態又ハ破損ノ爲瑞典領水内ニ入ルモノニハ適用セサルモ此ノ場合ニハ潜航艇ハ水面ニ顯出シ所屬國

瑞典諾威及丁抹國法令

旗ヲ掲ケ且萬國信號ヲ以テ領水内ニ入りタル事由ヲ示スヘク而シテ其ノ事由止ミタルトキハ速ニ出發スルヲ要ス本規則ハ七月二十八日ヨリ施行ス

右ノ原文

Le Ministère des Affaires Étrangères a l'honneur de communiquer à la Légation Impériale du Japon ce qui suit :

Le 19 juillet 1916 a été signé une Ordonnance Royale qui remplace l'Ordonnance Royale du 29 novembre 1915 contenant des additions à l'Ordonnance Royale du 20 décembre 1912 concernant les règles de neutralité établies pour le Royaume de Suède.

D'après la nouvelle Ordonnance il est interdit, sous peine d'être attaqués à force armée et sans avertissement préalable, aux sousmarins de guerre appartenant aux puissances étrangères de naviguer ou de séjourner dans les eaux territoriales suédoises à une distance de moins de 3 milles marins (5556 mètres) de la terre ferme ou de l'îlot ou récif le plus éloigné de la côte suédoise qui n'est pas continuellement submergé par la mer; exception faite cependant pour la route maritime dans le Sund, entre des parallèles de latitude tirés, au nord par le phare de Viken (lat. N. 56° 8' 7), et au sud par le phare de Klagshamn (lat. N. 55° 31' 2).

Les dispositions qui précèdent ne seront pas applicables dans le cas où, par suite de l'état de la mer ou pour cause d'avarie, un sousmarin serait contraint de pénétrer dans les eaux interdites, à condition toutefois que dans ces eaux il se tienne à la surface et porte le pavillon de sa nationalité et le signal international indiquant la raison de son entrée dans les eaux interdites. Dès que la cause de son entrée dans les eaux interdites aura cessé le sousmarin devra les quitter dans le plus bref délai possible.

La présente Ordonnance entrera en vigueur le 28 juillet 1916.
Stockholm, le 22 juillet 1916.

第二 スンド海峽南方瑞典領水内水雷敷設ノ件

○スンド海峽南方瑞典領水内水雷敷設(九月六日官報) 本件ニ關シ瑞典國駐劄内田特命全權公使ヨリ去月九日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ(外務省)

七月二十九日以後瑞典國政府ハスンド海峽南方領海内コグルンド (Koggrund) 水道北緯五十五度二十六分、北緯五十五度二十八分、東經十二度四十七分八秒、東經十二度五十分五秒ノ區域ニ水雷ヲ敷設シ右水雷布設區域ノ水路ヲ通過シ得ルモノハ(イ)瑞典軍艦及國有船(ロ)スンド沿岸ニ於テ定期航海ヲ爲ス瑞典商船(ハ)バルチック海ノ瑞典港ニ向ヒ

瑞典諾威及丁抹國法令

右水路通過ニ際シ瑞典行荷物ノミナ有スル瑞典商船(ニ)バルチック海ノ瑞典港ヲ出發シ
右水路通過ニ際シ瑞典港ニ於テ搭載シタル荷物ノミヲ有スル瑞典商船(ホ)瑞典船(登簿
噸數二十噸以下ノモノヲ含ム)ニシテ瑞典諸港ノ間ノミヲ航海スルモノニ限定シタリ

右ノ原文

Ordonnance royale du 14 juillet 1916 portant établissement d'un champ de mines dans la passe de Kogrund et réglementant la navigation dans ces parages.

§ 1.

Dans la passe de Kogrund entre Lat. N. 55° 26' et Lat. N. 55° 28' et les Long. E. 12° 47' 8'' et E 12° 50' 5'' un champ de mines sera établi par les soins de la Marine.

§ 2.

1. Les navires de commerce et les petits bateaux ne devront pas sans être autorisés passer par la zone indiquée au § 1, et devront au risque de sauter ou d'être empêchés de continuer voyage, se conformer rigoureusement aux indications concernant la navigation et autres prescriptions qui leur seront données par les commandants de navires ou embarcations de guerre suédois ou par le personnel du service de pilotage.

2. Les navires ou embarcations de la Marine de guerre suédoise chargés de

donner ces indications et prescriptions se serviront pour arraisonner :

du signal international MN donné par les pavillons à signaux

ou du signe ••——•• du système Morse donné par une lanterne à éclipses, un projecteur, un sifflet ou une sirène.

ou un ou plusieurs coups de canons ou de fusils à blanc (en cas de besoin on fera simultanément deux ou plus des signaux susmentionnés)

§ 3.

La passe de Kogrund ne pourra être utilisée que par :

a) les bâtiments de guerre suédois, ainsi que tous autres navires appartenant à l'Etat suédois ou à son service ;

b) les navires de commerce suédois qui font le cabotage régulier par le Sund ;

c) les navires de commerce suédois destinés à un des ports suédois de la Baltique, et qui arrivent à la passes soit sur lest, soit avec une cargaison destinée uniquement à un de ces ports,

ou qui arrivant d'un port suédois de la Baltique arrivent à la passe, soit sur lest, soit avec une cargaison provenant d'un des dits ports ;

d) les navires suédois (y compris les bateaux de moins de vingt tonnes) dont les ports de départ et de destination sont suédois.

§ 4.

1. Pour guider les navigateurs on placera par Lat. N. 55° 31' 51" et Long. E. 12° 51' un phare flottant marqué "KGR N-a", et portant en outre un signe consistant en un cône noir dont la pointe sera tournée en haut, avec un ballon noir, situé 2 mètres plus bas; la nuit ce phare flotant portera les lumières prescrites pour les navires à l'ancre et en outre un feu blanc avec un feu rouge, 2 mètres plus bas; ces deux feux doivent être visibles de tous les points de l'horizon à une distance de deux minutes au moins, par Lat. N. 55° 24' 41" et Long. E. 12° 48' 21" un phare flottant marqué "KGR S-a" et portant les signes susmentionnés.

2) Les bateaux de commerce et autres navires qui arrivent au champ de mines, doivent, sans être arraisonnés, s'arrêter au jeter l'ancre devant les phares flottants précités pour y attendre l'arrivée du bateau vigie; il leur est interdit de traverser le champ de mines avant d'avoir obtenu l'autorisation et avant d'avoir été visité par le chef du bateau vigie.

Les bateaux de commerce et autres navires, qui viennent du sud par la passe au sud du Falsterboriff devront toutefois, comme règle générale, subir la visitation, dont a été parlé ci-haut, avant d'entrer dans la dite passe, et cette visitation doit être exécutée par l'officier de la marine, chargé du commandement dans les parages minés; le certificat donne à la suite de cette visite, qui donne l'autorisation pour le passage par la passe de Kogrund, doit être présenté aux personnes compétentes à l'arrivée auprès du phare flottant au sud du champ de mines.

3. Dans la zone minée, pendant la traversée de la passe de Kogrund, seulement celui qui exerce le commandement sur le pont, et les hommes de l'équipage, dont la présence est absolument nécessaire pour la manœuvre du navire, pourront se trouver sur le pont.

4. Il est interdit de passer par la zone minée pendant la nuit ou par temps d'orage.

§ 5.

1. Les navires de commerce qui désireraient traverser la passe de Kogrund sans être remorqués ou précédés d'un navire de l'Etat suédois doivent, en payant des taxes prescrites, avoir recours aux services d'un pilote compétent, du service de pilotage officiel suédois; ce pilote, pour tout ce qui concerne la navigation dans la dite passe, sera placé sous les ordres de l'officier de la marine, chargé du commandement dans les parages minés, à charge par le pilote de veiller tant à ce que les dispositions du présent décret que les prescriptions spéciales qui pourraient

être ordonnées par le dit officier, soient strictement exécutées.

2. Les navires qui en arrivant devant la passe de Kogrund n'auraient pas à bord un pilote, pourront s'adresser au phare flottant, mentionné au § 4. pour en avoir un.

Ce décret entrera en vigueur le 29 juillet 1916 et sera en vigueur jusqu'à nouvel ordre.

En foi de quoi etc.

Fait au Palais royal de Stockholm, le 14 juillet 1916.

(s) Gustave
K. A. Wallenberg.

大正六年二月十三日印刷
大正六年二月十五日發行

海軍大臣官房

印刷者 島 連 太郎
東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷所 三 秀 舎
東京市神田區美土代町二丁目一番地

明倫彙編

三

卷之三

明倫彙編

三

三

三

三

卷之三

將軍大臣官制

大清六年二月十五日發行

大清六年二月十三日發行

147
130

